

令和六年度後期「宇治学コース」

◆受講料

各講座一回 七百元

五枚綴りチケット 二千八百円

《歴史コース》と《宇治学コース》
で使えます

九月～十一月の講座日に販売

◆定員 先着 二百名

*十一月三十日は、六十五名

◆申込み

講座日、会場で受付致します

事前申込み不要

◆問合せ

TEL 080・1526・6042

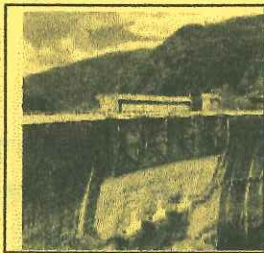
宇治市民大学事務局 丸山

◆注意
生涯学習センター専用の駐車場は
ありません

《テーマ》 時代のいとなみと災厄

講座時間 午前10時～11時30分

9/28(土)	伏見城城下町の出土遺物 ～日用品から贅沢品まで～ 京都産業大学文化学部教授 京都市考古資料館館長 山本 雅和さん
10/26(土)	『源氏物語』が描く人の心の真実 ～何が現代人の共感を呼ぶのか～ (その2) 園田学園女子大学名誉教授 福嶋 昭治さん
11/30(土) *	京都周辺の地殻変動と内陸地震 ～30年のGPS 観測から～ 京都大学防災研究所附属 地震災害研究センター教授 西村 卓也さん
12/14(土)	宇治川の水害 ～江戸時代の絵図等から見えてくること 京都産業大学現代社会学部教授 鈴木 康久さん <small>みちひさ</small>
1/25(土)	山城南部地域の中世城館と集落 城郭談話会会員 福島 克彦さん



天ヶ瀬ダムは西日本屈指の大河川・淀川に建設された最初のダムです。洪水調節、水道用水の供給、発電を目的として1964年に完成。高さ73m、長さ254mの堂々とした偉容を誇るドーム型アーチ式のダムで、その形が翼を広げた鳥の姿を思わせるところから、ダム湖は「鳳凰湖」と呼ばれています。(R6.6.4 撮影)

出典：<https://travel.ujicci.or.jp/app/public/shop/language/jp/58>

主催 宇治市民大学運営スタッフ会

共催 宇治市生涯学習センター

宇治市民大学



市民の手による、市民と地域のための大学

会場 宇治市生涯学習センター

宇治市民大学 令和6年度後期講座

講師からのひとこと

9/28 「伏見城城下町の出土遺物～日用品から贅沢品まで～」 山本 雅和さん

伏見城は城郭があった丘陵の周囲、主に西側斜面に城下町が営まれました。斜面上部に武家屋敷、下部に町屋が広がっており、元和9年(1623)の伏見城廃城にともない武家屋敷の多くは廃絶しましたが、そののちも城下町は町屋域を中心に発展を続けました。今回の講座では、伏見城城下町の町屋域の調査で出土した遺物を中心に、桃山時代から江戸時代にかけての人々の暮らしを紹介します。

10/26 「『源氏物語』が描く人の心の真実～何が現代人の共感を呼ぶのか～(その2)」

福嶋 昭治さん

前回の講座では、「源氏物語に描かれた人生」という包括的なお話をいたしました。今回は、源氏物語の魅力のもう一つの特徴である、細部表現に込められた人の心の真実というものを、物語の原文を丁寧に読み取ることから確認して行きたいと考えています。あらずじだけをたどれば、読み飛ばされてしまいそうな細部にこそ源氏物語の魅力は潜んでおり、それを確認することが、今を生きる私たちにとっても意義深いことであるのです。

11/30 「京都周辺の地殻変動と内陸地震～30年間のGPS観測から～」 西村 卓也さん

GPSは人工衛星からの信号を受信して、自分の位置を計測する、現在ではスマートフォンなどで広く使われているシステムです。日本全国にGPS観測点が整備されて、今年でちょうど30年になりましたが、これによりプレートの運動や断層周辺に蓄積するひずみなど、日本列島の地殻変動の実態がわかるようになりました。この講義では、地震に関する基礎知識から日本列島の地殻変動の様子や京都周辺で想定される内陸地震まで、GPS観測からわかってきた地震発生のメカニズムについてお話しします。

12/14 「宇治川の水害～江戸期の絵図等から見えてくること～」 鈴木 康久さん

江戸期を振り返ると、宇治川や巨椋池の活用が図られる中で水害も多く発生するようになりました。江戸期の河川の状況や水害等を描いた「城州江州土砂留場絵図(江戸後期)」や「伏見宇治川筋絵図(天保期)」などを読み解く中で、当時の水害対策についてお話します。

1/25 「山城南部地域の中世城館と集落」 福島 克彦さん

山城南部地域とは、山城国久世郡、綴喜郡、相楽郡で構成され、現在の京都と奈良の間にあたる区域です。この地域では、戦国期に山城国一揆が起こるなど、地域に根差した土豪たちが活躍していました。では、彼らの山城や居館はどのような景観だったのでしょうか。本報告では、当時の山城南部地域の土豪たちに着目し、現地調査や地籍図から彼らの居館跡と集落について考えてみたいと思います。なお、戦国期の宇治についても取り上げます。